

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
○児童の夢や願いの実現に向けて、児童のよさや可能性を伸ばす教育実践を通して、個の自己実現を図る。	① 自立に向かう規範意識と社会性の育成 ② 学びに向かう力の育成と学び合う学習集団の形成

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛

3 目標・評価						
① 自律的な規範意識と社会性の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○落ち着いた生活環境・学習環境づくり	校内ルールやマナーの徹底	・生徒指導の合言葉を守って生活する児童の割合を85%以上にする。 ・進んであいさつができていてと答える保護者等の割合を85%以上とする。	・昨年度作成した児童に親しみやすい合言葉を継続して用い、生活朝会やクラス掲示等、機会を捉えて説明・指導し、落ち着いた学校生活が送れるようにする。 ・ルールやマナーを明文化して職員で共通理解を図り、統一した指導を行う。	生徒指導	
		正しい言葉遣い・礼儀の意識付けと実践化	・挨拶や正しい言葉遣いを身に付けさせ、相手を尊重する態度を養う。 ・相手の話や意見をよく聞き、相手を受け入れる態度を養う。	・「オアシス」運動の推進 ・言葉遣いの指導 ・合言葉「みやきいの実践」 みづめてあいさつ やさしいえがお つよいきずな きらきら星をふやそう いつもびかびか北茂安小	生徒指導	
教育活動	●いじめ問題への対応  ●心の教育	人権・同和教育、道徳教育等の充実	・自分も友達も、大切な存在であることを自覚させ、互いに認め合い、助け合う態度を育てる。	・日常の観察やアンケートの実施等を通して児童の人間関係に気を配り、トラブルに早急に対応し解決することで、好ましい人間関係づくりを進める。 ・月に1回「共に生きる」を考える日を設けたり、集会活動やたてわり活動を通して児童相互の親睦を深めたりして好ましい人間関係づくりを進める。	人権・同和 道徳	
		一人一人が認められる居心地のよい学級づくり	・「なかよしアンケート」で「学校が楽しい」と答える児童の割合を90%以上にする。	・「QUテスト」や「なかよしアンケート」を実施し、個に応じた指導を充実させ、児童理解に努める。 ・ケース会議、生徒指導協議会や教育相談部会を行い、対応策を検討し、組織として対応する。	教育相談	
学校運営	○地域・保護者との連携	学校経営ビジョンと本年度の重点目標の周知	・学校教育目標や本年度の重点目標の保護者への周知率80%以上を目指す。	・各担任への周知を徹底するとともに、児童に機会あるごとに伝え、校内から意識を高める。 ・学校便りや学校ホームページ、学年通信、懇談会等、様々な形で保護者の目にふれるようにして周知させるとともに、学校経営方針と児童の生活や成長の姿がどう結びついているかといった具体的な姿や活動を紹介して理解、協力につなげる。	教務	
		家庭との連携による生活習慣・学習習慣の定着	・生活習慣を確立させる。 ・家庭学習の習慣化、家庭学習の充実を図る。	・生徒指導との連携を図ったり、学校便り等で望ましい生活習慣の形成について協力を呼びかけたりする。 ・「家庭学習の手引き」(佐賀県版・本校版)を活用する。 ・「家庭学習ががんばろう週間」を学期に1回設けて、家庭学習のがんばりを評価し、学習への意欲を高める。	生活環境部	
② 学びに向かう力の育成と学び合う学習集団の形成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○教職員の資質向上	校内研究の推進と個々の授業力の向上	・国語科算数科において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、児童の思考力・表現力を育てる。 ・各学級で、国語算数各1単元の授業を公開し、報告会をもつ。	・習得させるべき知識、技能を明らかにして指導の焦点化を図る。 ・習得した知識、技能を活用させ、解決の見通しを持たせたり、書く活動や伝え合う活動に取り組みせたりする。 ・学年単位で教材研究や授業作り、指導案作りに取り組む。 ・公開授業について半期ごとに報告会を開き、実践や成果・課題を共有する。	校内研究	
教育活動	●学力の向上	学習規律の定着とまなび合う学習集団の育成	・授業の始まり、終わりの挨拶や姿勢(立腰)、話を聞く態度など、学習規律を確立する。 ・主体的に学習に取り組む態度を形成する。	・本校の「学習のきまり」の周知徹底を図り、学習のルールを守らせる指導を徹底して行う。 ・安心して学習に取り組めるようにそれぞれの違いを認め、助け合うクラスの雰囲気を作る。 ・「めあて」「自力解決」「話し合い活動」「まとめ」「振り返り」の共通した授業スタイルで授業作りを行う。	学力向上 指導方法改善	
		基礎基本の確実な定着と活用力の育成	・CRTの結果で、全国平均との比較を昨年度よりも向上させる。 ・「授業が楽しい」「勉強が分かる」と答える児童の割合を90%以上にする。	・TTや少人数指導を積極的に取り入れ指導の充実を図る。 ・朝の時間を活用して、文章の読み取りと計算の反復練習、音読や視写のスキルの向上を図る。 ・家庭学習の手引きを活用して保護者に啓発を図るとともに、適切な量、質の宿題を出す。 ・既習事項の知識・技能の定着を図るような宿題の出し方を工夫する。	指導方法改善	
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	学力向上を目指したICTの積極的かつ有効な活用	・ICTを利用した授業を受けるのが楽しいと感じる児童の増加と、ICTを利用する教員の授業や教材作成に関する技能の向上を目指す。	・電子黒板・ぼうけんくん(デジタルカメラ)・タブレットPC等の効果的な使用法や、教材作成に関する便利なツールや学習支援ソフト・便利なサイトについて、紹介・研修する場を設定する。 ・ICT教育推進リーダーやICT支援員と連携しながら、ICT利活用に関する疑問や考えを話し合える雰囲気を作る。	ICT利活用教育	
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・毎日朝食を食べる児童の割合95%以上を目指す。 ・確実なアレルギー対応を継続する。(目標100%)	・朝食の大切さについては、児童に対しては掲示物や委員会活動、学級活動等で定期的に働きかける。家庭に対しては給食便り等を通して朝食の役割とともに内容の重要性についても啓発する。 ・全職員に食物アレルギー対応児童への周知徹底を図る。	食育	
学校運営	○特別支援教育の充実	教員の専門性・意識の向上と個に応じた指導・支援の充実	・発達障害や配慮を要する児童についての理解を深める。 ・個別の支援が必要な児童を把握し、保護者、担任、専門機関と連携をとりながら支援にあたり、現状の改善を図る。	・「通級指導教室」「特別支援学級」について全職員で研修する。専門性の高い外部講師による「発達障害」に関する研修会を持つ。 ・支援が必要な児童についてはケース会議を開く。また、必要に応じて巡回相談などの専門機関につなぐ。	特別支援教育	
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	勤務時間の適正化	・時間外勤務の月平均35時間以内を目指す。	・業務効率化の促進 ・金曜日に設定した定時退勤日は別に、月～木曜日の中で、各自で「家庭の日」を設け、少なくとも週2回は時間外勤務をしないようにする。		

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目